

「おせっかい」が
街を動かす。
黒崎の未来を、
僕らはあきらめない。



田中 大士さん
黒崎商店組合連合会 会長



黒崎という街の「時間」を背負いながら、同時に「未来」を見ている田中会長。守る覚悟と、変える覚悟の両方を持っているからこそ、一つ一つが重みある言葉。黒崎の商店街が動き続けている理由は、田中会長たちの素直な思いから！

「人形田中の田中です。黒崎商店組合連合会の会長もしています」と自己紹介すると、よく「大変でしょう？」と言われます。確かに、三十代から副会長、そして会長を6年。ここ十数年、私は文字通り、誰よりも近くで黒崎の街を見つめてきました。私の原動力は、20歳の頃に感じた「ワクワク」です。サンタに扮して子どもたちにプレゼントを届け、まだネットがない時代に仲間と必死で街の紹介本を作りました。あの頃の純粋な「街を良くしたい」という想いが、今の私の礎です。

平成23年、震災直後の混乱期。予算ゼロ、ノウハウゼロの状態。「アーケードの活性化」という無茶ぶりが降ってきました。「補助金に頼らず、自分たちの力で街を面白くしよう」。

事務局長と2人で四百万の協賛を集め、職業体験やマルシェを仕掛けました。猫しかいなかった静かな通りで、一日で3万人が押し寄せたあの日の光景、あの地鳴りのような熱気は、今も肌に焼き付いています。もちろん、楽しいことばかりではありません。「ボランティアでやっているから」と無責任なことを言われることもあり。でも、だからこそ私は言いたいんです。これからは「汗をかいた人が、ちゃんと報われる街」にしたい。次の世代が「まちづくりって、かっこよくて、しかも儲かるんだ」と思える背中を見せたいんです。



熊手銀天街
<https://kumadegintengai.com/>